

イベント列車で集客力アップ

「沿線地域と
ともに発展を
目指します」と
松橋勝利部長



[秋田内陸縦貫鉄道株式会社 | <http://www.akita-nairiku.com/>]

〒018-4613 秋田県北秋田市阿仁銀山字下新町 41-1 / TEL. 0186-82-3231 · FAX. 0186-82-3793
n-info20@akita-nairiku.com



A

存続の危機を乗り越えて 地元観光の活性化を目指す

生き残りをかけて観光鉄道へ

周辺人口の減少などから、一時は存続すら危ぶまれた「秋田内陸縦貫鉄道」。現在、「あきた美人ライン」という愛称のもと多くのイベントを開催し、沿線地域の観光資源を活かしながら乗客の増加を目指している。内陸線とバスで沿線の観光地を巡るツアーの他、農家のお母さんたちの手料理が楽しめる「ごっつお玉手箱列車」、車両基地で子どもたちを対象に行っている「鉄道基地見学」など、工夫を凝らした企画が目白押しだ。

秋田犬の魅力を伝えて観光PR

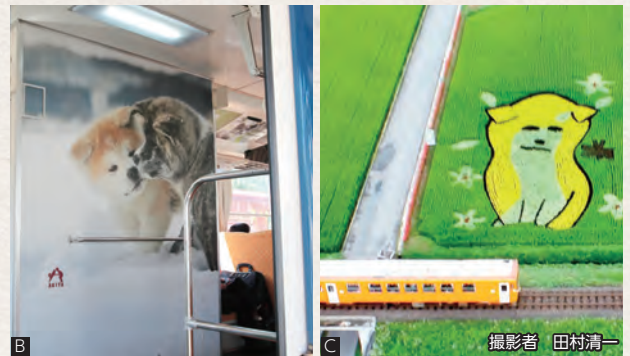
県では2016年12月から、内陸線を含む角館駅から旧小坂駅までを「秋田犬ふれあいライン」と銘打ち、秋田犬に実際に会える観光コースとして国内外にPRしている。そこで、当センターの産業デザイン支援センターに相談して、「犬っこ車両」を制作した。車両の外観は、秋田の原風景を損なわないシンプルなデザイン。一方、内装はたくさんの秋田犬の写真などがディスプレイされ、オレンジ色の

シートも犬っこ柄で、賑やかなイメージだ。観光客のためのエンターテインメント性を追求しながら自然や地域との調和も忘れない。そんな内陸線の思いを体現した車両となっている。

また、内陸線では沿線5ヵ所で「田んぼアート」を制作。走行中の車窓からが一番きれいに見えるように作られており、今年のテーマは「秋田犬と四季」。犬っこ車両と相まって、今年の内陸線は秋田犬一色だ。

利用客の減少が深刻な内陸線だが、前田南駅が人気アニメ映画の聖地と言われるなど、明るいニュースも多い。2016年度は台湾からの観光客が1万5千人を超え、前年比で倍増した。

「内陸線が観光の拠点となって、沿線地域とともに発展していきたい」と総務企画部長の松橋勝利さん。観光鉄道としての今後に期待だ。



B

C

撮影者 田村清一



D

- A 自然との調和を目指した「犬っこ車両」
- B 内装は秋田犬の魅力が満載
- C 毎年行われる田んぼアートの見ごろは7月～9月上旬
- D 「鉄道基地見学」に子どもたちも大喜び

事業概要 産業デザインに関する助言

産業デザイン、製品開発、マーケティング等についての専門的な助言やデザイナーとのマッチング、コーディネートを行います。

あきた企業活性化センター/総合企画部
知財・デザイン支援課(あきた産業デザイン支援センター)
(018-860-5614)まで。

お問い合わせ